

全国青少年武徳祭に想う

高田 寛次

猛暑のなか、平成二十七年七月二十日（海の日）第二十一回全国青少年武徳祭が、全国各地各団体に所属し伝統武道を志す青少年会員一三七名が京都旧武徳殿に集い盛大に開催された。

開催に先立ち、濱田鉄心先生先導のもと団体長・青少年会員及び保護者は、平安神宮に参拝され心身を清め、演武の成功・無事を祈願しお祓いを受けた。

旧武徳殿は、明治二十八年（一八九五年）平安遷都一一〇〇年祈年事業であった平安神宮造営と時を同じくして、大日本武徳会の演武場として武徳殿の建設計画が持ち上がり、そして明治三十二年（一八九九年）の平安神宮の北西の地に武徳殿が竣工され現在の建物であります。当時、東の講道館・西の武徳殿と評される程、日本武道の中心的存在でありました。

我々の先人達が日夜武道の稽古に励み、百二十年という長きにわたりのこの武徳殿を守り続けて来られた諸先生方の偉業を忘れてはなりません。

この旧武徳殿には武道に励んでこられた武人の魂が宿っています。このような旧武徳殿において伝統武道（演武）が出来ることのようにを忘れてはなりません。

参加された皆さんには、日ごろ伝統武道の稽古を真剣に習い「うまくなるろう」「強くなるろう」・「しんどい」思いをしておられることを痛感する一人であります。

「うまくなるろう」「強くなるろう」とする気持ちはよくわかりますが、稽古のつどあなた以上に真剣に教えて下さっている師匠・指導者・先輩・友達たちのことを忘れないで下さい。

学業を終え、道場への送り迎えをして下さる人もあるでしょう、汗にまみれた胴着などを洗って下さる人もあるでしょう、陽（ひ）になり陰（かげ）になって、あなたを大応援して下さる人達が居られることを忘れず感謝しなければ「うまく」も「強く」もなれません。

総裁東伏見慈晃殿下ご臨席のもと、午前十時三十分・空手道 正守和道塾・芳賀裕哉君の力強い選手宣誓に続き、祓の儀・居合道 こばと修童館・中田太郎君、空手道 日本空手道拳龍会・光野優希さんの演武は素晴らしく、日頃から精進されている結果だと称え、感銘した。将来、一般社団法人大日本武徳会の会員として、また、良き指導者として囑望される。

七歳から十七歳までの青少年会員はそれぞれの伝統武道・流派の特徴や所作の違いを良き指導者の素晴らしい指導と、時には厳しく指導